

H26年1月30日(木)  
15:00~17:00  
県白壁庁舎5階第4会議室

## 「平成25年度 大学と県教育委員会との連携推進会議」資料

- 資料1-1~4 平成25年度「あいちの大学『学び』フォーラム」開催結果
- 資料1-5~6 平成26年度「あいちの大学『学び』フォーラム」開催案
- 資料2-1~2 平成25年度「大学生による学校現場での学習支援の充実に向けた情報交換会」開催結果等
- 資料2-3 平成26年度「大学生による学校現場での学習支援の充実に向けた情報交換会」開催案
- 資料3 「あいちの学校連携ネット」について
- 資料4 「学びネットあいち」について
- 資料5 県教育委員会における主な高大連携の取組状況(平成25年度)
- 資料6 愛知県総合教育センターにおける研修・講座の参観について
- 参考1 平成25年度「あいちの大学『学び』フォーラム」講座風景
- 参考2 大学生による小・中学校での学習支援の充実に向けた「学生向けメール配信システム」による情報提供について
- 参考3 「あいちの学校連携ネット」のリニューアルについて

愛知県教育委員会



教育は  
未来へつなぐ  
希望の輪

## 1 目的

県内全ての高等学校及び特別支援学校高等部に在籍する1年生及び2年生（3年生も希望すれば対象）が、大学での「学び」（90分の講義）を体験して、自分の関心のあることを見つけたり、関心のある分野の知識をさらに深めることにより、その後の進路選択の一助とする。

## 2 経緯

平成25年1月	平成24年度第2回「大学と県教育委員会との連携推進会議」において、平成25年度開催案を協議
平成25年3月	大学宛てにフォーラムへの協力依頼（講座および会場提供について照会）
平成25年5月	大学からの回答を取りまとめ、全体プログラム作成
平成25年6月	記者発表・募集開始
平成25年7月	募集締切（8月開催分）
平成25年8月	第1回フォーラム開催（県立大学サテライトキャンパス(名古屋駅)） ※以降、10月～12月にかけて順次開催

## 3 参加者の声（H25「アンケートの声」要約）

### < 講師 >

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. まじめに聴いてくれた生徒さんに感謝します。</li> <li>2. 非常に熱心に聴いてもらい、<b>やりがいがありました。</b></li> <li>3. <b>熱心</b>に受講してもらい、気持ちよくできました。ありがとうございました。<br/><b>ぜひ来年もよろしく願います。</b></li> <li>4. 受講生はみんな熱心に聞いていました。<b>手話通訳があったので話のスピードが速くならないように気をつけました。</b></li> <li>5. <b>意欲的な</b>生徒が多く、楽しめました。</li> <li>6. <b>まじめな</b>生徒さんが多く、授業がやりやすかったです。</li> <li>7. <b>今後も継続していただければと思います</b>（年複数回も検討ください）。</li> <li>8. 高校生に対して示すべき内容を再検討すべきであると自らが感じました。</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>9. <b>よい企画ですので、もっと広がるとよい</b>と思います。外で受講する機会は生徒にとっても刺激が多いと思います。</li> <li>10. 希望動機や目的等が事前に分かると内容をよりまとめることができたと感じます。</li> <li>11. <b>高校1～2年生と触れ合う機会を今後増やすべきだ</b>と思いました。貴重な経験をありがとうございました。</li> <li>12. <b>卒業後のキャリアパスの話があってもよい</b>のではないのでしょうか（専門分野ごとに）。</li> <li>13. 高校での学習状況により、講義の仕方が異なる分野だったので<b>レベル合わせに苦労</b>しました。</li> <li>14. <b>教育委員会主導の取組は大変良い機会</b>になっていると思います。<b>夏休み時期の方が生徒負担も少なくよい</b>のではないのでしょうか。</li> </ol> |
|--|--|

### < 生徒 >

- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 90分は今まで経験がなかったのですが、<b>授業が長い分だけ濃い話を聞くことができ、とても充実した90分</b>でした。</li> <li>2. 90分あつという間でした。今日はとても貴重な一日で、とても楽しかったです。</li> <li>3. 学校での45分の授業より、<b>自分が興味のある分野の90分のほうが集中できて楽しかったです！！</b></li> <li>4. 普段の45分よりも倍の時間でしたが、すごく面白くて普段の授業よりも苦になりませんでした。</li> <li>5. <b>初めて学びフォーラムに参加してすごく良い体験ができました。また参加したい</b>と思います。ありがとうございました。</li> <li>6. 自分の<b>興味のある分野について詳しく知る</b>ことができる機会ができて、とても学べるが多くて良かったと思いました。</li> <li>7. <b>学校では聞けないようなことまで教えてくれた。</b>とても分かりやすかった。もうちょっと時間があっても良かった。</li> <li>8. <b>授業では習ったことのない話を聞いてとても勉強になった。</b>興味のある話で、また機会があれば参加したい。</li> <li>9. <b>色んな講座を受けて、いろんなことを知って、納得のいく大学を決められるとよい</b>です。</li> <li>10. <b>自分の進みたい分野がよく分かってよい経験</b>になった。</li> <li>11. 自分の<b>将来に向けて考えることができ良かった</b>です。</li> <li>12. <b>大学で学びたいことがはっきりした</b>のでまた参加したいと思った。</li> <li>13. <b>大学で学びたい</b>なと思いました。先生が好きです！</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>14. 今はまだ<b>分からないことがあったのでもっと勉強してから受講したい</b>。</li> <li>15. 講義の<b>スライドが早く進んで少し目が追いつかない所もありました</b>が楽しかったです。</li> <li>16. とても眠かった。<b>90分の授業は長い</b>と思った。もう少し頑張ってみようと思った。</li> <li>17. とても専門的な話で<b>分からない部分も少しありました</b>。しかし、実際の大学と同じような雰囲気を味わえて、とても有意義だったと思います。</li> <li>18. 分かりやすい説明と<b>自分の手でできる実験がとても良かった</b>です。</li> <li>19. <b>大学本キャンパスで開催し、大学の雰囲気をもっと感じたい</b>と思いました。</li> <li>20. とても有意義な時間を過ごせました。質問にも良い返答をいただき、<b>これを機にもっと勉強を頑張ろう</b>と思いました。</li> <li>21. 実際の大学の先生の話聞いて、<b>現場の雰囲気や仕事内容について知ることができて良かった。また来たい</b>と思いました。</li> <li>22. 先生のお話がとても楽しく、<b>今後の生活の中でもこの講座で学んだことについて考えてみたい</b>と思いました。</li> <li>23. 自分の<b>思った内容とは少し違う内容でしたが、興味の幅が広がったのでよかったです</b>。</li> <li>24. 普段の学校の授業と違い、「～だから、こうだ。」といった<b>分かりやすい説明があり感動</b>しました。こういった大学の講義に参加させてもらったことは初めてだったのでとても勉強になりました。</li> <li>25. <b>同じ学問の講座が連続しているのもいいな</b>と思いました。</li> <li>26. <b>大学院に行くことも考えてみたい</b>と思いました。</li> <li>27. <b>参加型の講義を受けてみたい</b>です。</li> <li>28. <b>討論形式のような講座を受講してみたい</b>です。</li> </ol> |
|---|--|

4 全体概要

	平成24年度	平成25年度
日程	計4日間 (10/28(日) 11/11(日) 12/8(土)・15(土))	計6日間 (8/2(金) 10/27(日) 11/16(土)・17(日) 12/7(土)・8(日))
場所	延べ6会場・5大学(名古屋5, 東三河1) 10月 愛知県立大学サテライトキャンパス (名古屋:名駅) 11月 愛知県立大学サテライトキャンパス (名古屋:名駅) 11月 名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス (名古屋:名駅) 12月 名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎 (名古屋:熱田区) 12月 日本福祉大学名古屋キャンパス (名古屋:中区) 12月 愛知大学豊橋キャンパス (東三河:豊橋)	延べ8会場・7大学等(名古屋5, 尾張1, 西三河1, 東三河1) 8月 愛知県立大学サテライトキャンパス (名古屋:名駅) 10月 愛知東邦大学キャンパス (名古屋:名東区) 11月 愛知県立大学サテライトキャンパス (名古屋:名駅) 11月 愛知大学豊橋キャンパス (東三河:豊橋) 11月 名古屋産業大学尾張旭キャンパス (尾張:尾張旭) 11月 名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス (名古屋:名駅) 12月 「保育コンソーシアムあいち」サテライトセンター (名古屋:金山駅) 12月 人間環境大学キャンパス (西三河:岡崎)
講座	全21講座(21大学) ※29大学43講座を調整 <分野別内訳> ①歴史・文化・言語 5 ⑥生活科学 3 ②こども・教育 3 ⑦保険・医療・福祉 3 ③芸術・デザイン 2 ⑧情報・工学 2 ④ビジネス 2 ⑨理学 0 ⑤社会問題 1 計 21	全26講座(26大学) ※30大学48講座を調整 <分野別内訳> ①歴史・文化・言語 1 ⑥生活科学 3 ②こども・教育 3 ⑦保険・医療・福祉 4 ③芸術・デザイン 4 ⑧情報・工学 3 ④ビジネス 2 ⑨理学 2 ⑤社会問題 4 計 26
参加	参加生徒 586名 (他に保護者等12名・・・総数 598名) 参加校 89校 (うち、1年209名、2年326名、3年50名、4年1名) (うち、男子230名、女子356名) (うち、県69校、市6校、私12校、特別支援2校)	参加生徒 452名 (他に保護者等13名・・・総数 465名) 参加校 64校 (うち、1年167名、2年272名、3年13名) (うち、男子143名、女子309名) (うち、県54校、市0校、私6校、特別支援4校)

<平成25年度プログラム調整方針>

- ・【会場】駅から徒歩でアクセスできる場所を優先して選定(バスによるアクセスは、当日の混乱等を避けるため選外)
- ・【会場】新たな地域として、尾張地域及び西三河地域での開催に配慮
- ・【講座】平成24年度でやむを得ず選外となった大学を平成25年度に優先して選出
- ・【講座】平成24年度に開催が少なかった分野(理学、社会問題等)の優先的な選出に配慮
- ・【講座】講座分野がなるべく連動するように選出(参加生徒が複数講座をまとめて受講できるよう配慮)

※特別支援学校の参加生徒数が大幅に増加  
平成24年度 2名 → 平成25年度 延べ22名  
(うち15名は豊学校生徒)

参考：各会場の講座風景（平成25年度）

8月2日 県大サテライト



坊垣教授(愛知医科大)

10月27日 愛知東邦大



津田教授(愛知工業大)

11月16日 愛知大学(豊橋)



鈴木教授(愛知大学)

11月17日 名古屋産業大



竹市客員教授(愛知学院大)

12月7日 名古屋経済大(名駅)



鮎京教授(名古屋大)

12月7日 保育コンソーシアム



鷹巣教授(愛知教育大)

12月8日 人間環境大



葛原教授(愛知東邦大)

# 平成25年度「あいちの大学『学び』フォーラム」開催結果（その3）

資料1-3

## 5 講座別の参加者内訳

	平成24年度	平成25年度	総計
■ 1 講座あたりの平均参加者数	27.9人/講座(全21講座)	17.4人/講座(全26講座)	22.1人/講座(全47講座(1,038人))
■ 1 講座あたり平均参加者数の分野別順位	No.1 こども・教育 (40.0人)※3 No.2 生活科学 (32.0人)※2 No.3 情報・工学 (30.0人)※2 No.4 保健・医療・福祉(29.0人)※4 No.5 芸術・デザイン (27.5人)※2	No.1 保健・医療・福祉 (29.3人)※4 No.2 生活科学 (24.7人)※3 No.3 こども・教育 (19.7人)※3 No.4 芸術・デザイン (16.5人)※4 No.5 ビジネス (15.5人)※2	No.1 こども・教育 (29.8人)※6 No.2 保健・医療・福祉 (29.1人)※8 No.3 生活科学 (27.6人)※5 No.4 歴史・文化・言語 (21.3人)※6 No.5 芸術・デザイン (20.2人)※6

### 表中の①～⑨は分野別の分類番号

- ①歴史・文化・言語：史学、文学、考古学など
- ②こども・教育：教育学、心理学、人間科学など
- ③芸術・デザイン：美術、音楽、映像、建築など
- ④ビジネス：経済学、経営学、商学、金融工学など
- ⑤社会問題：法学、政治学、国際関係学、社会学など
- ⑥生活科学：栄養学、農学、水産学、環境など
- ⑦保健・医療・福祉：医学、社会福祉、スポーツなど
- ⑧情報・工学：機械、電気通信、エネルギーなど
- ⑨理学：数学、物理、生物、化学など

平成24年度				
日程	会場	参加	講座	講師
10/28 (日)	県立大サテライト	39	⑥スポーツ選手の食事を考えよう!	松島佳子 東海学園大学健康栄養学部准教授
		22	⑤国際社会と法	佐分晴夫 名古屋経済大学法学部教授
		21	①「いま」に生きる名古屋城下町	山村亜希 愛知県立大学日本文化学部准教授
11/11 (日)	県立大サテライト	18	③絵画と写真をつなぐブラックボックス「カマラオプスクラ」	小林亮介 名古屋造形大学造形学部教授
		32	①言葉と文化～日本語と英語をくらべて～	廣瀬正宣 名古屋外国語大学外国語学部教授
		30	①Exploring Different Worlds Through English	Robert Croker 南山大学総合政策学部教授
	名古屋経済大(名駅)	61	②人間関係を上手にやるコツ教えます -対人魅力の心理学-	北折充隆 金城学院大学人間科学部准教授
		21	⑦どのような支援ができるだろう? -ある貧困家庭のこどものケース-	湯原悦子 日本福祉大学社会福祉学部准教授
		27	⑦長寿社会における栄養学	井形昭弘 名古屋学芸大学学長
12/8 (土)	名古屋学園大(白鳥)	26	⑦頑張りないストレッチング	松田克彦 名古屋学院大学スポーツ健康学部
		12	①三国志と人形劇	渡邊幸彦 同朋大学文学部准教授
		37	③江戸のユニバーサルデザイン	堀越哲美 名古屋工業大学工学部教授
		42	⑧身近になる知能ロボットとAI	巢宇燕 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部教授
12/15 (土)	日本福祉大(名古屋)	36	②保育者の仕事は子どもと遊ぶことなの?	小嶋玲子 桜花学園大学保育学部教授
		23	②手話の成り立ちを考える-特別支援教育入門-	小田候朗 愛知教育大学教育学部教授
		25	⑥食と遺伝子	佐藤浩 名古屋文理大学健康生活学部教授
		6	④シリアスゲームによる学びと問題解決	天野圭二 星城大学経営学部准教授 野村淳一 星城大学経営学部准教授
	愛知大(豊橋)	27	①英和辞典はどのようにして作られるのか	塚本倫久 愛知大学国際コミュニケーション学部教授
		21	④企業経営におけるマーケティング・コミュニケーション	川戸和英 豊橋創造大学経営学部教授
		42	⑦こころをつくる化学物質たち	吉田祥子 豊橋技術科学大学環境・生命工学系講師
		18	⑧自動車の衝突安全設計の考え方	山本照美 愛知工科大学工学部教授

586人

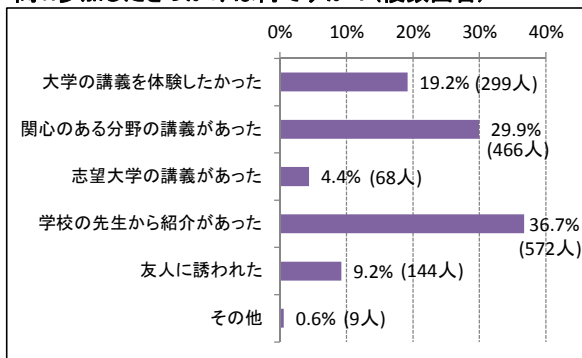
平成25年度				
日程	会場	参加	講座	講師
8/2 (金)	県立大サテライト	76	⑦「痛い痛い飛んでいけ」はウソ?ホント?	坊垣友美 愛知医科大学看護学部准教授
		19	③美術と教育-大人の絵と子どもの絵	笹子恭男 愛知県立大学教育福祉学部教授
		40	⑥スポーツ現場での管理栄養士の仕事	松島佳子 東海学園大学健康栄養学部准教授
10/27 (日)	愛知東邦大	16	⑥ソーセージとチーズの科学	林利哉 名城大学農学部准教授
		6	①アメリカ手話の魅力	菊池俊一 名古屋外国語大学外国語学部教授
		8	⑤あなたが世界に何ができるのか	影戸誠 日本福祉大学国際福祉開発学部教授
		15	⑦しなやかな脚を作る!	阿部友和 星城大学リハビリテーション学部助教
		6	⑧知らなきゃ損する!最新光デバイス	津田紀生 愛知工業大学工学部教授
		7	⑧空気のようなシステムと緑のようなマネジメント	鷺見克典 名古屋工業大学工学部教授 横山淳一 名古屋工業大学工学部准教授
11/16 (土)	県立大サテライト	7	⑨統計学入門～データから何が分かるか?～	木村美善 南山大学情報理工学部教授
		17	③デザイナーの頭の中って、どうなってるの?	下尾邦之 名古屋造形大学造形学部教授
	愛知大(豊橋)	10	⑦臨床工学技士って何者?	井平勝 藤田保健衛生大学医療科学部准教授
		17	⑧壊さないもの・壊すもの 安全について考える	足立忠晴 豊橋技術科学大学工学研究科教授
		18	④企業経営とエネルギー・環境問題	見目喜重 豊橋創造大学経営学部教授
		13	④粋(いき)な地方人=ポスト東京人のまちづくり	鈴木誠 愛知大学地域政策学部教授
11/17 (日)	名古屋産業大(尾張旭)	12	⑨ビッグデータに挑む統計学	加藤悟 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部准教授
		13	②学校って何だろう-教育の歴史社会学-	久保田英助 愛知みずほ大学人間科学部講師
		14	②「学び」について	竹市良成 愛知学院大学総合政策学部客員教授
12/7 (土)	名古屋経済大(名駅)	18	⑤アジア諸国に対する法整備支援	鮎京正訓 名古屋大学法学研究科教授
		12	⑤株式会社は、インドで生まれた?	川上博英 名古屋経済大学法学部教授
	保育コンソーシアム	19	③音にまつわるエトセトラ～音空間と音楽～	牧勝弘 愛知淑徳大学人間情報学部准教授
		11	③図像学入門	鷹巣純 愛知教育大学教育学部教授
12/8 (日)	人間環境大	12	⑤震災を語り継ぐ-映像メディアの役割-	柘窪優二 椋山女学園大学文化情報学部教授
		32	②大学で学ぶ心理学	三後美紀 人間環境大学人間環境学部講師
		16	⑦スポーツトレーナーを目指す!!	葛原憲治 愛知東邦大学人間学部教授
		18	⑥生活環境のにおい・かおり	光田恵 大同大学情報学部教授

452人

6 アンケート結果

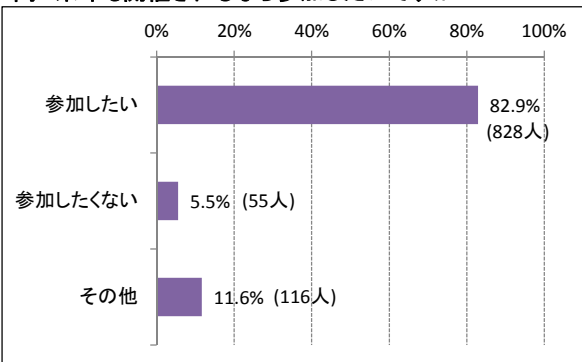
生徒アンケート(H24~25の合計値)

問1:参加したきっかけは何ですか？(複数回答)



その他回答(例):講座が面白そうだった/去年も参加してよかったから/  
知らない分野を知ってみたいかった 等

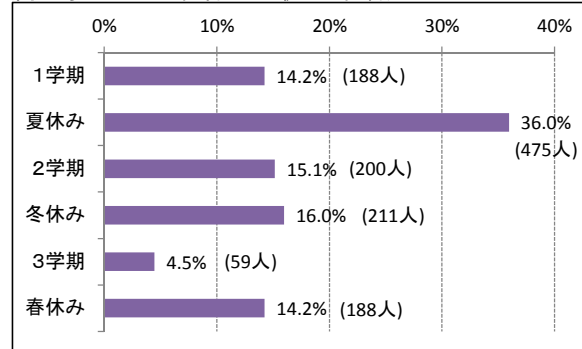
問3:来年も開催されるなら参加したいですか？



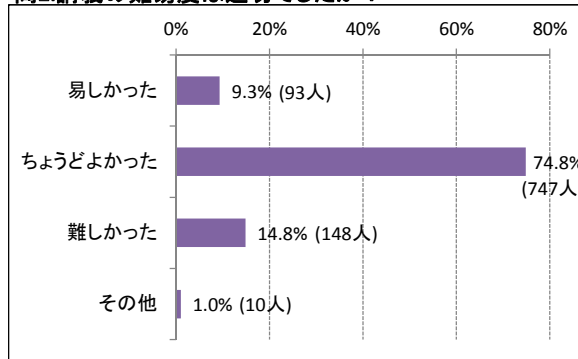
その他回答(例):日程が合えば/興味のある講座があれば(多数) 等

問5:時期はいつがよいですか？

(問3で参加したいと回答した生徒のみ回答)

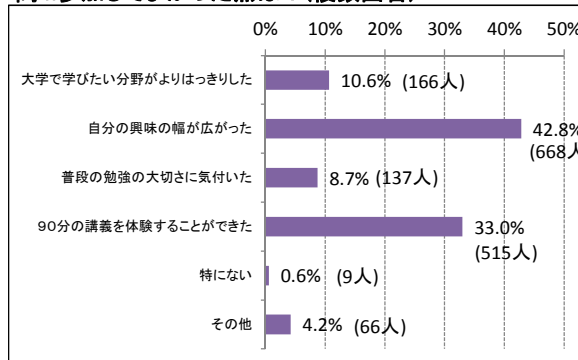


問2:講義の難易度は適切でしたか？



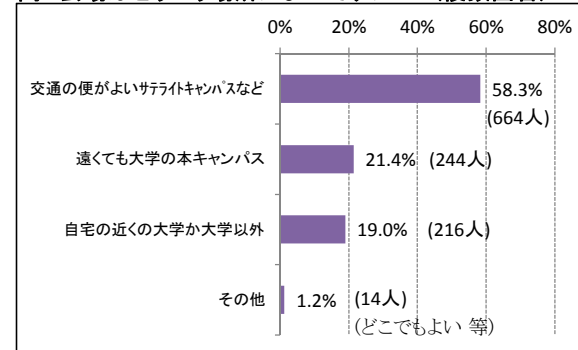
その他回答(例):少し難しかった/なんともいえない/ふつう 等

問4:参加してよかった点は？(複数回答)



その他回答(例):今後活かせる/興味がさらに深まった/同じ興味を持つ  
友達に出会えた

問6:会場はどういう場所がよいですか？(複数回答)



講師アンケート(H25のみ)

(全25人、一部複数回答あり)

1. 参加のきっかけ

- ①自分の希望 (7 / 26人)
- ②大学の方針 (19 / 26人)
- ③その他 (0 / 26人)

2. 高校生の態度

- ①良い (21 / 25人)
- ②普通 (4 / 25人)
- ③悪い (0 / 25人)
- ④その他 (0 / 25人)

3. 来年度の参加

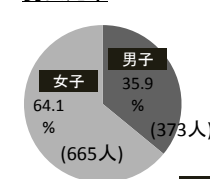
- ①参加したい (20 / 25人)
  - ②どちらでもよい (4 / 25人)
  - ③参加したくない (0 / 25人)
  - ④その他 (1 / 25人)
- (その他:職場今年度限り)

4. 会場場所

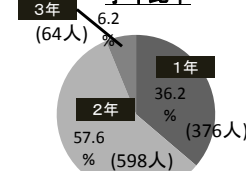
- ①サテライト等便が良い所 (17 / 29人)
  - ②遠くても本キャンパス (8 / 29人)
  - ③自宅近くの大学等 (2 / 29人)
  - ④その他 (2 / 29人)
- (その他:高校生の参加が容易なところあればどこでもよい / 特になし)

参加生徒属性(H24~25の合計値)

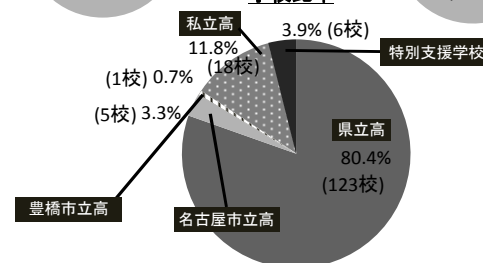
男女比率



学年比率



学校比率



## 平成26年度の開催方針（案）

参加者アンケート結果（生徒及び大学講師の意見）によると、来年も参加したいという生徒の声が多く、また、大学講師からも継続開催の意見が寄せられていることから、以下の案により、平成26年度も引き続き開催することとする。

## （1）日程

- アンケートからは夏休みがよいという声が多数寄せられており、また、本年度において夏休み期間にあたる8月（平日）に試験的に開催したところ、他の日程と比較しても参加者数が多かったため、平成26年度は夏休み期間の開催を増やす。
- これまで開催している10月～11月の土日は学力考査や部活動の大会日程と重複することが多く、生徒の参加が難しいとの声が学校現場から寄せられていることから、なるべく10月～11月の開催は避けることとする。

## （2）会場

- アンケートからは「サテライトキャンパスなど交通の便がよい会場」を希望する声が多かったことから、これを中心に調整を行うが、その一方で、大学の本キャンパスでの開催を望む声もあるため、大学の回答状況をみながら県教育委員会で調整する。
- 会場地区については、本年度において新たに尾張・西三河地区で試験的に開催したところ、当該地区の高校からの出席者は多かったものの、他地区の高校からの出席者は少なかった。また、会場場所に限らず、講座内容をみて参加している傾向が全体的に強く見受けられることから、会場の地区割りにこだわらず、生徒が参加しやすい会場を優先する。

## （3）講座

- 各大学から派遣可能な日程、テーマ、講師について回答してもらい、原則1大学1講座となるように県教育委員会が調整する（本年度の選外大学は優先して選出）。
- 通常の講義に限らず、ワークショップやゼミ形式など、幅広い講座パターンを募集する（生徒からも要望あり）。
- 分野別のバランスは、あくまで大学の回答状況全体をみながらの調整となるが、人気分野（※1）や、生徒から開催を望む声が多い分野、進学者が多い分野、過去に開催が少ない分野（※2）などに配慮する。

また、人気分野については、多くの生徒が参加できるように複数日程の開催も検討する。

※1（例）：教育学、心理学、人間科学、医学、看護学、スポーツ、栄養学、言語（特に英語）

※2（例）：史学、マンガ、建築、宇宙、生物、経済、政治、法律、数学、物理、情報通信

## （4）スケジュール

- ①1月30日 大学と県教育委員会との連携推進会議
- ②2～3月 大学へ講師派遣及び会場提供の依頼・照会
- ③4～5月 大学の回答期限、教育委員会による調整
- ④5月 全体プログラム確定
- ⑤5～6月 記者発表、学校への参加依頼
- ⑥7月 本番（以降、順次開催）

## （5）その他

- 募集要項（定員(50名)や応募方法(所属学校経由で県教育委員会への申込)等の設定）は、原則例年どおりとする。
- 従来は、主催者として県教育委員会のみを示していたが、平成26年度からは記者発表やチラシ等において、「大学と県教育委員会との連携推進会議」を共催者として記すことにより、高大連携による取組であることを対外的によりPRしていく。

※各大学におかれましては、本事業が次代を担う若者を社会全体で育成していくために、県内の大学と愛知県が協力して進めていくという趣旨のもとでスタートした事業であることに鑑み、可能な範囲で講師の派遣及び経費等の負担についてご協力いただきますようお願い申し上げます。



## 1 目的

大学と市町村教育委員会の担当者同士が、学校現場での大学生ボランティアについて情報交換を行うことにより、より多くの大学生に学習支援に参加する機会を提供する。

## 2 経緯

平成25年7月 各大学宛てに開催通知・出席者照会 → 8月に取りまとめ  
 平成25年9月 各市町村教育委員会宛てに開催通知・出席者照会 → 10月に取りまとめ ※各市町村には出席大学の一覧を通知し、これを踏まえての出席者を照会  
 平成25年10月 記者発表  
 平成25年10月 尾張会場（10月30日（水） 14時～16時 於愛知県自治センター）  
 平成25年11月 三河会場（11月13日（水） 14時～16時 於愛知県西三河総合庁舎）  
 平成25年12月 各大学・市町村教育委員会宛てに次年度の参考とするためのアンケートを実施

## 3 内容

- (1) これまでの経緯説明、「あいちの学校連携ネット」紹介
- (2) 大学と市町村のグループ（8名前後）に分かれての情報交換（約35分）
- (3) 各グループから情報交換の結果報告
- (4) 全体による情報交換（約20分）

※情報交換の主な内容（例）

- ・市町村におけるH26の学生ボランティア内容
- ・学生の募集方法
- ・学生の保険、報酬、旅費の対応
- ・大学での単位認定

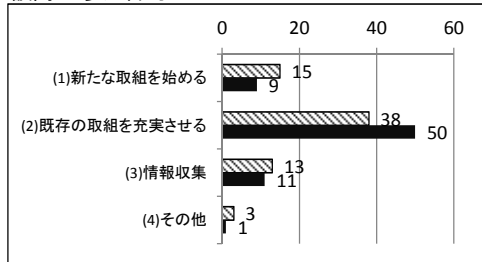
## 4 参加者

(1) 参加者数（人）

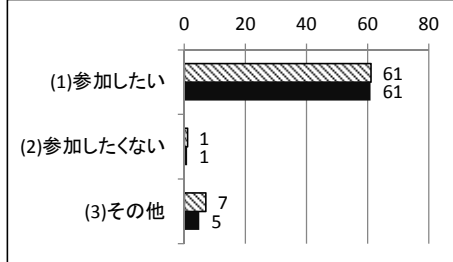
	尾張会場		三河会場		大学計	市町村教委計	総計
	大学	市町村教委	大学	市町村教委			
H25年度	27	28	4	9	31	37	68
H24年度	25	21	8	14	33	35	68

(2) アンケート結果（グラフ上段（斜線）がH24年度、下段（黒）がH25年度、いずれも単位は「人」）

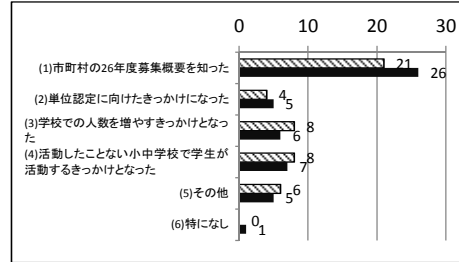
設問1. 参加目的について



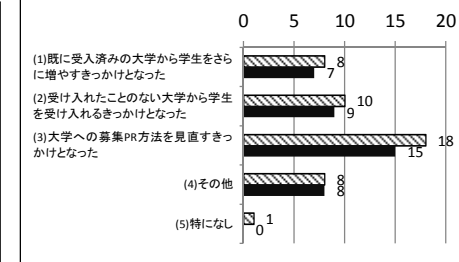
設問2. 次年度の情報交換会について



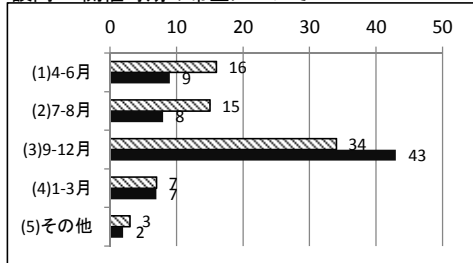
設問3. 【大学向け】参加して良かった点について



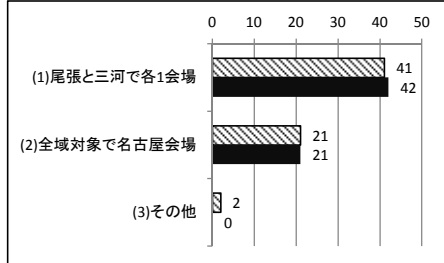
設問4. 【市町村向け】参加して良かった点について



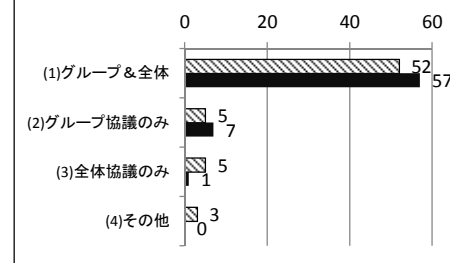
設問5. 開催時期の希望について



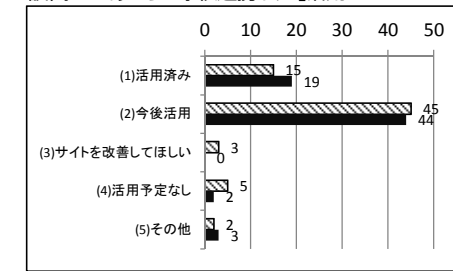
設問6. 開催会場について



設問7. 開催内容について



設問8. 「あいちの学校連携ネット」活用について



### 【参考】～学生に対する学校現場からの声～

- 「元気な学生が学校生活に入ったことにより、校内が活力あふれ、明るい雰囲気になった。」
- 「授業中、きめ細かな個別指導が行き届き、子どもが落ち着いて学習に取り組めるようになった」
- 「学生が教育実習を終えてから、また同じ学校に入って子ども達とさらに深く関わることができ、教育効果を上げている」
- 「授業だけでなく、給食や放課、部活動なども共にしてくれる学生もいて子どもたちが喜んでいる」

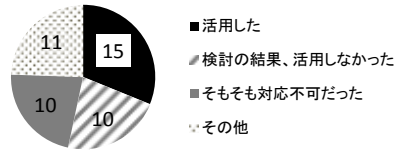


5 その他アンケート結果

H25年12月に大学と市町村教育委員会に対して実施したアンケートの取りまとめ結果（抜粋）。来年度以降の情報交換会の開催検討等のために実施したもの。

【大学向けアンケート結果（全49大学）】

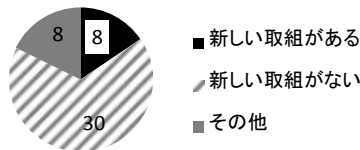
(1) 大学内の学生向けメール配信システム用に県教育委員会が作成した「学生ボランティアの募集情報を集約した情報」の活用状況について（※）



- 活用しなかった理由（例）
  - ・教員を目指す学生が少ない（少ない）。
  - ・システムで流す既存の情報量が多く、ボランティア情報を掲載しても学生が読まないと判断。
- その他（例）
  - ・すでに市町村と連携した取組を実施中。
  - ・講義、ポスター、口頭などにより周知。

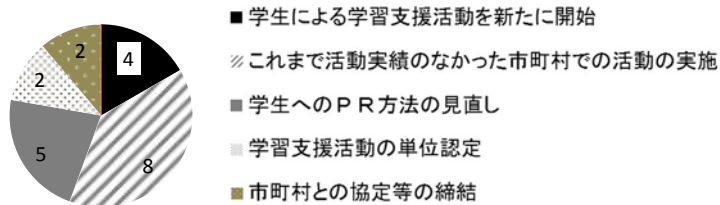
※市町村が募集する学生ボランティアの情報を県教委が集約し、大学内の学生向けポータルサイト用などに案文を作成して大学へメール送付しており、その活用状況を問う設問。

(2) 平成26年度の「大学生による学校現場での学習支援」について、新たに実施する（もしくは検討している）取組がありますか。



- 「新しい取組がない」と回答した補足（例）
  - ・現行の取組を良いものとするため検討は継続していく。
  - ・現行の取組の拡充・基盤強化は検討する。
- その他（例）
  - ・検討中。
  - ・市町村から依頼がある度に検討している。

(3) 上記(2)で「新しい取組がある（もしくは検討している）」と回答した大学について、具体的な内容は何ですか。



【参考(各会場の様子)】

尾張会場風景(H25.10.30 於県自治センター)



三河会場風景(H25.11.13 於県西三河総合庁舎)



【市町村向けアンケート結果（全54市町村）】

(1) 平成25年度(4月～11月末)に管内の小中学校の学習支援等に参加した大学生について

- ・いる：42（40）市町村
- ・いない12（13）市町村

※カッコ内の数は前年調査結果。ただし、対象期間はH24.4月～H25.3月上旬頃。以下同じ。

(2) (1)で「いる」と回答した場合、参加した大学生の実人数について

- ・合計：1,696人（1,983人）

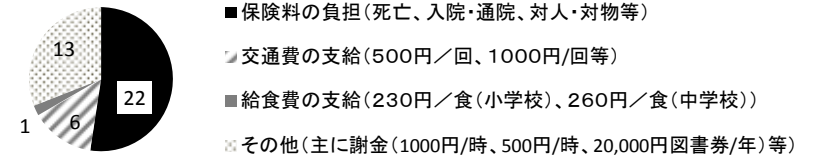
(3) 「大学生による学校現場での学習支援」に関する実施要項等の有無について

- ・ある：22市町村
- ・ない：32市町村

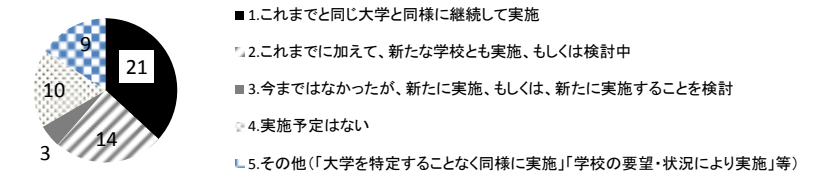
(4) 参加大学生への補助について

- ・ある：29市町村
- ・ない：25市町村

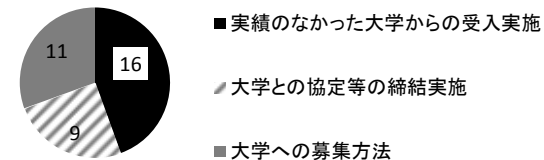
<補助の内容（複数回答）>



(5) 平成26年度の「大学生による学校現場での学習支援」について（複数回答）



(6) (5)で2もしくは3（H26に新たな取組がある）と回答した場合、その具体的な内容について（検討含む）



## 平成26年度の開催方針（案）

参加者アンケート結果によると今後も参加したいという声が多く、また、県教育委員会として将来の教員の資質向上のため、当情報交換会がより効果的な場となるように、以下の案により平成26年度も引き続き開催することとする。

## （1）日程

- アンケートからは9月から12月の間の開催を希望する声が多く、この傾向は大学・市町村ともに共通であることから、例年同様に**9月から12月の間の開催**とする。
- 教育委員会が**2日間の日程を設定し、大学と市町村に出欠の都合を照会**し、その回答をとりまとめ、全体の出欠バランスをみながら参加者の調整を行う。**日程によって人数が偏らないように配慮**する。なお、両日の参加も可とする。

## （2）会場

- アンケートからは例年同様に尾張会場と三河会場での各1回ずつの開催を望む声が多かったが、これは参加人数の多い尾張会場の参加者のアンケート結果によるところが大きく、三河会場の参加者のアンケートでは、県内全域を対象として名古屋会場での開催を望む声も多かった。
- 平成26年度は、**これまで参加者が少なかった三河会場での開催を止め、県内全域を対象として名古屋会場で開催する。**

## （3）内容

- アンケートからは「**グループ協議と全体での協議**」を希望する声が多かったため、以下の流れで進行する。
  1. グループ協議（1グループ8名前後で大学と市町村を同数配置）
  2. グループ協議結果発表（各グループでの論点、課題等の報告）
  3. 全体協議（グループを超えての情報交換を実施）※その他、大学・市町村での個別の取組や連携した取組で事例発表ができそうなものがあれば、当日に発表してもらうことも検討。  
(例) 【大学】単位認定、【市町村教育委員会】学生への保険・報酬、  
【大学・市町村教育委員会】大学と市町村教育委員会の連携事例 等

## （4）スケジュール

- ①平成26年7月 各大学宛てに開催通知・出席者照会
  - ②平成26年9月 各市町村教育委員会宛てに開催通知・出席者照会
  - ③平成26年10月 記者発表
  - ④平成26年10～12月 名古屋を会場として2日間開催
- ※市町村教育委員会宛てに通知する際には、出席大学の一覧も参考までに併せて情報提供する。

## （5）その他

- 平成25年度より新たに実施した「大学での学生向け**メール配信システムによるボランティア情報の発信(※)**」を**継続**して実施し、学生にダイレクトに情報提供を行う。  
※「あいちの学校連携ネット」で市町村が募集する大学生ボランティア情報をコンパクトに取りまとめたものを大学へメール送付し、その後各大学のメールシステムや掲示板等を経由して直接学生へボランティア情報を発信する取組。
- 「あいちの学校連携ネット」を経由して、**直接、市町村にボランティアに関する問合せ（平成25年10月からサイト改修により付与した新たな機能）をした学生の情報を大学担当者と共有**する。
  - ・平成25年10月末～平成26年1月までの間に合計9件（7大学）の利用あり。
  - ・県教育委員会の担当者から当該大学の担当者に対し、ボランティアの問合せをサイト経由で行った学生の情報をメール送付により伝達するもの（学生情報の取扱については、各大学の運用による）。

## 1 概要

県内の大学、市町村教育委員会、県立・私立学校等の各種情報を掲載し、双方の連携した取組の実施につなげていくことを目的に開設したマッチングサイト。平成24年3月に開設。

## 2 利用状況

### (1)平成24年度（H24.4月～H25.3月）

- アクセス数……………14,041件
  - ページビュー数
    1. トップページ……………24,418件
    2. 高校生向け講座関係……………6,933件
    3. 学生ボランティア募集関係……………5,192件
- \*他に、教員向け講座関係やマッチングポータル(※)へのアクセス数も多い。※高校と大学等が実際に連携し実施した事例の報告ページ

### (2)平成25年度（H25.4月～H25.12月） ※カッコ内は前年同月時点

- アクセス数……………17,944件（10,600件）前年比約1.7倍
  - ページビュー数
    1. 学生ボランティア募集関係……………14,309件（3,255件）前年比約4.4倍
    2. トップページ……………12,938件（20,953件）前年比約0.6倍
    3. 高校生向け講座関係……………2,520件（6,317件）前年比約0.4倍
- \*次いで、大学見学や教員向け講座関係ページへのアクセス数も多い。

### (3)大学からの情報掲載

＜サイトへの情報掲載をした大学の数＞

	高校生向け 公開講座	高校生向け 出張講座	大学見学	教員向け 公開講座
H24年度	28	35	45	2
H25年度	<b>9</b>	35*	45*	2

※ H24年度から継続掲載のものが大半を占めている。

### (4)【参考】学生ボランティア募集ページへの情報掲載

＜サイトでボランティアの募集をした市町村等の数＞

	市町村 教育委員会	特別支援学校
H24年度	12	2
H25年度	15	1

### 利用状況分析

- H25年度において、前年よりもアクセス数が増加しており、それと同時に学生ボランティア募集関係のページへもアクセス数が急増している(市町村による募集情報の掲載件数も増加)。
- 一方、H24年度において、トップページの次にアクセス数が多かった高校生向け講座関係のページへのアクセス数はH25年度において減少している(当該講座をサイトに掲載する大学の数も減少)。

## 3 サイト改修

サイトの利便性を更に高めるため、本年度において以下のサイト改修等を実施し、改修後のサイトを平成25年10月末から公開開始。

- (1) **短期大学の情報追加**（既存の4年制大学同様に県内全ての短期大学の情報を追加）
- (2) 市町村が募集する大学生ボランティアに係る申込み機能の追加（**サイト上から大学生が市町村に対して直接申込み等ができる仕組みを追加**）
- (3) サイト利用促進のための**チラシ・ポスターを高校生向け、大学生向けにそれぞれ作成**し、関係各所へ配付
- (4) その他、サイト上で必要なレイアウトや機能の修正等



※サイト経由によるボランティア申込みの主な流れ  
 ①学生がボランティア募集ページから市町村宛てに個人情報と申込内容等を入力・送信  
 ②申込等があった旨、市町村へメール送信される(個人情報はパスワードで保護)  
 ③以後、市町村担当者と学生で直接やり取りを行い、今後のボランティア活動に向け調整

## 4 サイトのPR

- (1) 県教育委員会の高校生向け・大学生向け事業でのチラシ配付や、教育委員会広報誌でのサイト情報の掲載。
- (2) 大学が登録した「高校生向け講座情報」や、市町村教育委員会が登録した「大学生のボランティア情報」の更新情報を取りまとめ、県立学校や大学宛てにメール配信。
- (3) 市町村教育委員会が登録した「大学生のボランティア情報」をコンパクトに取りまとめたものを大学へメール送付し、その後各大学内の「学生向けメール配信システム（学生向けポータルサイトやメルマガ等）」を経由して直接学生へボランティア情報を発信（平成25年度新規）。

**⚠ より魅力的なサイトにするためにも、各大学で学生にサイトをPRしたり、積極的な情報の更新(特に講座)をお願いいたします。(サイト閲覧者は各大学で実施する高校生向け講座や、小中学校での学生ボランティアの情報を検索していることが大半です。)**